

第6回 障がい福祉講演会

第1部 映画 (字幕あり)

「夜明け前」

～呉秀三と無名の精神障害者の100年～

心を病んだ人々は、なぜ閉じ込められなければならないのか？

精神の病とは…、人間の尊厳とは…、いま突きつけられる問いかけ！

第2部 パネルディスカッション

「知ることは、明日へつながる」

精神疾患の体験談や家族の思いをもとに、
誰もが暮らしやすい街となるように、ともに考えましょう。

コーディネーター

青木聖久氏（日本福祉大学 教授）

略歴 兵庫県淡路島生まれ。精神保健福祉分野のソーシャルワーカー勤務を経て現任校。全国精神保健福祉会連合会（家族会）理事、日本精神保健福祉学会理事等を歴任する。

「慮（おもんばか）る」。素敵な日本語です。他者のことを、我がことのように思いめぐらす、という意味です。ぜひ、映画、さらには、パネリストの語りから、「精神障がいを持って、この地で暮らすこと」について、慮って頂けると幸いです。



平成31年3月3日(日)

13:30～16:30(開場13:00)

会場：豊明市文化会館 小ホール

主催 豊明市社会福祉協議会 共催 豊明市

参加
無料
要申込

手話通訳・要約筆記あり

映画紹介



「精神病患者は、病気になった不幸のほかに、この国（日本）に生まれた不幸がある」
 これは、日本の精神病患者の実態調査をした精神科医師の呉秀三の残した言葉です。
 100年前、欧州では、精神の病への治療や地域での生活が進められていました。その頃の日本は、精神の病を持った人たちに対する有効な治療がなく、自宅に閉じ込められ暮らしていました。この現状を何とかしようと奔走した呉秀三のドキュメンタリーです。

パネリスト紹介

・岩田圭司氏（当事者）

名古屋市生まれ。48歳。立命館大学文学部英米文学科卒業。在学中に統合失調症を発症し、長い病気体験・入院体験を持つ。病院のデイケア、作業所、就労継続支援B型事業所を経てリハビリ（回復）の道を歩む。平成28年に結婚。現在、地域活動支援センター「きぼう」のピアスタッフとして勤務。大学などでリハビリ体験の講師や執筆活動へも取り組んでいる。

・早川 要氏（豊明家族会 会長）

5人の子供の父で、15年前に長男がこころの病を発症した。何とか入院しても、薬の常用ができず入退院を繰り返す毎日でした。近年、服薬と適度な仕事が続くようになり、親子3人で楽しく暮らしている。

・森 昌樹氏（社会福祉士）

豊明市障がい者基幹相談支援センターフィットの相談支援専門員として、障がいを持つ人の地域生活の支援を行っている。



アクセス
 豊明市文化会館
 〒470-1121
 豊明市西川町広原28番地1
 TEL 0562-93-3310

参加申込

お名前	所属	ご連絡先
		- -
		- -
		- -

（このままFAX送信してください。電話、メールでも受付しております）

お問合せ 豊明市障がい者基幹相談支援センターフィット
 申込 〒470-1116 豊明市新田町吉池18-3
 TEL 0562-91-1760 FAX 0562-91-1761
 MAIL sodanfitto@toyoake-syakyo.jp